

## *Sophia Linguistica* 応募論文の書式 - 2016年度改訂版 -

内容: 言語諸科学研究論文, 博士論文および修士論文の抜粋。  
資格: ・上智大学国際言語情報研究所の正所員・準所員・客員研究員  
・上智大学大学院言語学専攻教員・非常勤教員・客員教員・客員研究員  
・言語学および関連諸分野専攻の本学博士前期・後期課程在学中あるいは修了の大学院生及び卒業生。(但し, 大学院生の場合は指導教員の推薦を得ること。\*)

※同一著者による応募は1号につき1本までとする。

また, 共著論文の共著者による単著論文の応募も原則として受け付けない。

※国際言語情報研究所の正所員が共著論文を投稿する場合, 正所員を第1著者とする。

執筆言語: 日・英・仏・独・西・葡・露語

\*指導教員からの推薦には特に書類の提出は必要ないが, 別紙(または応募メール本文)に推薦を得た指導教員名を記載すること。

### 1. 書式に関する注意:

- (1) 原稿サイズ: A4
- (2) 余白: 余白は上下左右 2.5cm 以上。
- (3) 字体: 日本語の場合には明朝体, 11 ポイント,  
外国語の場合には Times New Roman, 12 ポイント。
- (4) 分量: 日本語の場合は 1,5000 字以内\*\*。  
外国語の場合は 7,000 語以内。  
(タイトル, 要旨, 参考文献, 付録等を含む)  
いずれの場合にも, 英語の Summary (15 行以内) を付けること。  
\*\*日本語論文において欧文を使用する場合, 欧文は単語間のスペースを含めて 2 字分を 1 字として扱う。

### 2. 形式に関する注意:

- (1) 論文の構成
  - ・別紙(または応募メール本文):  
タイトル\*\*\*, 著者名, 所属, 住所, E メールアドレスを書く。  
大学院生は推薦を得た指導教員名を記す。  
また論文中に謝辞を含む場合, ここに記載する。
  - ・本文  
第1ページ目: タイトル\*\*\*,  
執筆言語に問わず 15 行以内の英語の Summary を書く。  
  
\*\*\*英語以外の論文では英語タイトルを併記する。  
また, 英語のタイトルでは前置詞・冠詞を除く各単語の最初の文字を大文字で表記する。  
  
第2ページ目以降: 投稿論文の本文。
- (2) 小節番号: 半角を用い, アラビア数字による通し番号。  
(英語論文の場合, 各小節の第1段落はインデントなし。)

- (3) ページ番号: 各ページ下中央にアラビア数字による通し番号。
- (4) 図・表: 図・表は原則として本文中に直接挿入する。別紙で添付する場合には本文中に挿入箇所を示すこと。また、解説(caption)は当該図表の下側に置く。
- (5) 注 (Notes): 本文末につける。行間やフォントは本文の規定に準ずる。
- (6) 文献・資料: 文献から引用した資料の典拠を示す際は、一行で納まるならば、用例の後に右揃えして置く。

例

(本文) -----  
-----.

(A) Wish she'd get her strength back, though. (Steinbeck 1954, p.36)

-----

典拠が二行にまたがる時は、引用が終わった行の次の行の冒頭より典拠を書き始める。

-----  
-----.

(B) Proclaimed her consenting adulthood in love affair.  
("Want Privacy? Then Shut Up," NYTWR, Aug. 30, 1992, IE 7: col. 4, par. 4)

-----

- (7) 付録(Appendix): 付録資料がある場合には、参照文献リストの後ろに置く。

### 3. 参照文献に関する注意:

- (1) Summary, 本文および注で言及した文献・資料以外は載せないこと。
- (2) 執筆者や編者の名前 (first name) 及び名字 (family name) は分かる限り略さずに綴る「Higginbotham, J.」等は不可。
- (3) 発行や執筆の年号は執筆者名あるいは編者名と文献名の間に置き、括弧でくくらない。
- (4) 著者名, 出版年, 論文名, 書籍名などの各項目の最後にピリオドを置く。日本語の書籍の場合には、「」と『』の後にはピリオドを置かない。

例

Booij, Geert and Jaap van Marle eds. 1990. *Year Book of Morphology*, 3. Dordrecht: Foris.  
黒田成幸. 2005. 『日本語からみた生成文法』 東京: 岩波書店。

- (5) 出版社や論文所蔵機関の名称中に大学名が入っている場合、略さずに綴り、U や Univ.等はいない。但し、MIT はそのまま。また、大学の分校名はコンマで示す。

例 University of California at Berkeley ⇒ University of California, Berkeley

- (6) 論文名は、全て引用符で括り、書・誌名はイタリック体で書く。和書の場合には、論文名は「」で括り、書名は『』で括る。

Chomsky, Noam and Howard Lasnik. 1993. "The theory of principles and parameters theory." In *Syntax: International Handbook of Contemporary Research*. Eds. by Joachim Jacobs, Arnim von Stechow, Wolfgang Sternefeld, and Theo Vennemann. Berlin: Walter de Gruyter, 506-569.  
黒田成幸. 1999. 「主部内在関係節」 黒田成幸, 中村捷 編『ことばの核と周縁—日本語と英語の間』 東京: くろしお出版, 105-160.

- (7) 頁数が巻毎に通し番号を打ってある雑誌には号数を付けず、それ以外の雑誌にのみ号数を付ける。

Lefebvre, Claire. 1993. "Dominance vs. precedence in the double object construction: New facts from Fongbe." *The Canadian Journal of Linguistics*, 38: 395-424.  
Mihara, Kenichi. 1994. "Iwayuru shuyobu naizaigata kankeisetsu ni tsuite." *Nihongogaku*, 13.8: 80-92.  
三原健一. 1994. 「いわゆる主要部内在型関係節について」『日本語学』, 13.8: 80-92.

- (8) 学会議事録の名称は、NELS, WCCFL, BLS, CLS を除き、略さず綴る。

Browning, M. A. 1993. "Adverbial reflexives." *NELS* 23: 83-94.  
Inomata, Chizuko. 1993. "On the internal structure of with NP XP sequences." *Proceedings of the 6th Summer Conference 1992 Tokyo Linguistic Forum*, 83-96.

- (9) 未出版論文、博士論文など未出版の論文名はイタリック体は用いず引用符で括る。

Szabolcsi, Anna. 1992. "The Noun Phrase." Ms., University of California, Los Angeles.  
Dechaine, Rose-Marie A. 1993. "Predicates across Categories: Towards a Category-Neutral Syntax." Doctoral dissertation, University of Massachusetts, Amherst. [Reproduced and distributed by Graduate Linguistic Student Association, Department of Linguistics, University of Massachusetts, Amherst.]

- (10) 同一執筆者の文献が複数ある場合、2 点目以降も執筆者名は省略しない。また、同一年のものは年号の後に a, b, c を付ける。

Kayne, Richard S. 1989a. "Facets of Romance past participle agreement." In *Dialect Variation and the Theory of Grammar*. Ed. by Paola Beninca. Dordrecht: Foris, 85-103.  
Kayne, Richard S. 1989b. "Null subjects and clitic climbing." In *The Null Subject Parameter*. Eds. by Osvaldo Jaeggli and Kenneth J. Safir. Dordrecht: Kluwer, 239-261.

- (11) 版の示し方

Chomsky, Noam. 1982. *Lectures on Government and Binding*. 2nd ed. Dordrecht: Foris.

- (12) URL の示し方

Steriade, Donca. 2001. "Directional asymmetries in place assimilation: A perceptual account." In *The Role of Speech Perception in Phonology*. Eds. by Elizabeth Hume and Keith Johnson. San Diego: Academic Press, 219-250. [Available at [www.linguistics.ucla.edu/people/steriade/papers/ICPHS2000.pdf](http://www.linguistics.ucla.edu/people/steriade/papers/ICPHS2000.pdf)]

- (13) その他

各言語・分野ごとの慣例がある場合には上記に準じずにそちらに従っても良い。  
ただし、その場合には論文中で形式を統一させること。

以上  
上智大学国際言語情報研究所 Sophia Linguistica 編集部